

美術専攻 洋画研究領域

XU Yaoyao

ジョ ヨウヨウ



「ここから、伸びていく」

アクリル、木の枝、碗の破片(陶片)、布、
新聞紙・接着剤・ペットボトルを用いて樹幹部分の構造を成形する

「ここから、伸びていく」

エコフェミニズムは、1974年にフランソワーズ・デュボンヌによって提唱されて以来、女性と自然が社会構造の中で同時に抑圧されてきたことを明らかにし、人と自然の新たな共生関係の可能性を提示してきた。本修士制作は、このエコフェミニズムの視点を手がかりに、女性と自然の関係性、そして破壊を経た後に立ち上がる安定した再生の状態について、インスタレーションを通して探るものである。

これまでの制作では、自身の成長経験を背景に、女性として生きる身体や感情に根ざした表現を行ってきた。制作を重ねる中で、破壊や消耗を主題とする段階を経て、次第に安定やあたたかさへと関心が移行し、自然のモチーフが作品に繰り返し現れるようになった。

その過程において、私は無意識のうちに女性の在り方を自然の存在と重ねて捉えてきたことに気づいた。こうした制作の変化を通して、自身の表現がエコフェミニズムの視点と響き合っていることを自覚し、本修士制作ではその関係性をより明確に探っている。

本作品では、「木」の形象を中心に空間を構成している。木は、抑圧や破壊を受けながらも地面に根を張り、生き続ける存在であり、女性と自然に共通する破壊を経た再生の力を象徴している。木の表面には、割れた碗の破片を全面に配置した。碗は家庭における食事や家事と結びついた日常的な器であり、女性が長く担ってきた継続的な労働や支えを象徴している。その破片で覆われた木は、社会や生活の中で生じた破壊の痕跡を抱えながらも、再び組み直され、再構築された存在として立ち上がる状態を示している。

さらに、木の左右および背面には縫い合わせた布を垂らして配置した。これらは内面における修復の過程を可視化するものであり、作品全体を通して、破壊の痕跡を内包したまま持続していく再生の状態を表現している。